

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【芝原小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> さいたま市学習調査において、算数科の平均正答率が市の平均正答率を下回っている。ほぼ全ての領域において、3ポイント以上下回っている。 <指導上の課題> 正答率の分布図を見ると、正答率の個人差が大きく、個に応じた指導を充実させる必要がある。	⇒ 従来の問題解決型の学習に捉われるのではなく、1時間の授業の流れや単元計画を工夫することで、「指導の個別化」「学習の個性化」を意識した授業改善を行っていく。【毎時間】 単元ごとに学年で教材研究を行うことにより、児童が主体的に学習に取り組み、基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。【毎単元ごと】
思考・判断・表現	<学習上の課題> さいたま市学習調査において、算数科の平均正答率が市の平均正答率を下回っている。ほぼ全ての領域において、3ポイント以上下回っている。 <指導上の課題> 正答率の分布図を見ると、正答率の個人差が大きく、個に応じた指導を充実させる必要がある。	⇒ 今年度の芝原小学校は学校課題研修として、「わかるできる喜びを味わい、自ら学びに向かう児童の育成」を目指している。算数科における授業の型「芝原スタンダード」を作り、全職員と共通認識を図る。そうすることで、解決の見通しをもって自力解決の場面に授業で設定できるようにする。【毎時間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	算数科の領域A「数と計算」における小数や分数の加法についての設問や数量関係を式に表し、計算する設問については、全国平均の正答率を上回っていた。 算数科の領域B「図形」において、全国の正答率に比べて5ポイント以上低かった。具体的には、平行四辺形の性質をもとに作図をする問題や台形の意味や性質についての理解、角の大きさの本質についての理解度が低いことが課題であると考えられる。	
思考・判断・表現	思考・判断・表現の項目においては、ほぼ全ての領域で全国の正答率を下回っていた。図形の面積の答えの求め方を説明する設問など、答えの求め方を図や式で説明する設問に関しては、全国の正答率に比べて5ポイント以上低かった。そのため、自分の考えを表現することが課題であると考えられる。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	単元ごとに学年で教材研究を行い、児童が主体的に学習に取り組み、基本的な知識及び技能の確実な定着を図っている。 また、学校全体で研究授業・協議会を行うことで、指導方法の共通理解や指導力の向上を図ることができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	算数科における授業の型「芝原スタンダード」をもとに全職員が指導を行うことができています。その中で、児童同士が自由に意見交換ができる時間も十分に確保しているため、全国学力調査で課題であった「自分の考えを表現する」力も身に付けられると考える。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)